

## 教育実践研究フォーラム

### 教育実践と省察のコミュニティ2014

教育実践研究フォーラム in 長崎大学が11月8日と9日に行われました。この実践フォーラムにおいて教職大学院生は、学校現場の多くの先生方と交流する機会に恵まれました。ポスター発表における質疑応答やラウンドテーブルでの傾聴を通して、多様な考えや実践に触れる経験を積めたことは貴重な財産であります。“連携”により、他者から貪欲に学び成長し続ける教師を目指してもらいたいと思います。



小学校通常学級における積極的行動支援 (PBS) を用いたクラスワイドな支援の在り方

子ども理解・特別支援教育実践コース 井上亜依子  
通常学級の児童の授業参加行動を高めるための実践研究に取り組んでいます。これまでに、学級社会スキルの一つとして、うなずく、話している人の方を見るなど、「上手な聞き方」について道徳の授業を行いました。単一事例研究のデータ表示・分析法を使って、結果の分析と解釈を行いました。このほか、児童の能動的・積極的授業参加行動を促すために、ユニバーサルデザイン学習の原理と手続きを活用した国語の授業を行うことを計画しています。

ポスター発表では、フロアの皆様から用語や研究デザインについて質問を受けました。最終報告書の作成と発表に向け、研究の目標、デザイン、結果をより簡潔明瞭に伝えられるように、理論と方法論について学習を進めています。



英語科の授業におけるブレ・リーディング活動について

国際理解・英語教育実践コース 喜久 優佳  
中学校英語科の授業での読解指導において、ブレ・リーディング活動が生徒に与える効果を調査している。本研究では、理解に困難が生じる内容の英語学習において、生徒があらゆる大切な部分などの読解ができることを目標に、トップ・ダウン処理の促進を視野に入れた、ブレ・リーディング活動に焦点を当てている。  
実習校で、中学3年生を対象として、長文読解前記2種類のブレ・リーディング活動をそれぞれ2学級ずつ実施した。活動実施後の英文内容把握問題の正答率、及び生徒の学習内容についての記述により、活動の効果を検証中である。正答率と学習内容の記述との関連、及び単元と活動の相性について詳細に分析し、今後の授業に活かしたい。

### ポスター発表から



通級指導教室における書字指導の実践

子ども理解・特別支援教育実践コース 出口 康子  
本実践では、通級指導教室で書字に困難がある児童に対して、ICT機器を活用した小集団の指導方法を明らかにすることをねらいとした。指導の中で、認知特性を生かした教材作成や声かけを併せて行った。授業の展開は、タブレットPCでの漢字学習と鉛筆での書字のフィードバックを中心にビジョントレーニングや動きを伴う活動も取り入れた。タブレットPCでの漢字練習は、間違いを教師から指摘されることなく書き直しができ、消しゴムを使わないため本人の負担が少ないという利点が見られた。また、直後の漢字確認では高い割合で正しい漢字を書くことができた。本研究をもとに、今後も通級指導教室での指導方法を改善しつつ継続した実践を行いたい。



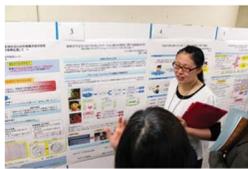
子どもが自己と他者を見つめつなげる授業についての研究

学校運営・授業実践開発コース 田中 淑香  
本研究は、「自己と他者を見つめつなげる子ども」を育成するために、ESD(持続可能な開発のための教育)の考え方をもちに授業を作成・実施し、考察することが目的である。  
ESDで重視する能力・態度、教師も持つておくべきESDのコンピテンツ等に留意しながら作成した道徳授業を4学級で実施し、再構成した後にB学級で実施した。授業評価は、児童による主観評価、ワークシート、連想法等を用いて行った。  
本実践を通して、ESDを取り入れた道徳授業の可能性を提示することができた一方で、ESDと評価・学級経営との関係や、ESDを日々の授業にどのように取り入れていくのかといった課題も明らかとなった。これらも教育現場で実践を継続したい。



リスニングにおけるbottom-up処理の力を支える発音指導

国際理解・英語教育実践コース 岸川奈津美  
本研究は、英語の聞き取りを難しくする語と語の連結による音変化を取り扱った発音指導を行い、リスニングの基礎力の向上を目指している。実践内容としては、中学2年生に対し、事前テスト(音読の録音・リスニングテスト)、音変化を取り扱った授業実践を3回、事後テスト(事前テストと同様の内容)を行った。音読の録音の事前・事後テストの比較の結果としては、指導した3種類の音変化も事後テストで得点は上昇しているが、t検定を行うと事前・事後テストに有意な差は無かった。また、脱落は他の音変化よりも定着しやすい傾向にあるということが言えた。今後は、リスニングテストのデータの分析や、各テストの結果の相関関係を見ていく。



病気の子どもにおけるコミュニケーション能力の育成に関する実践的研究

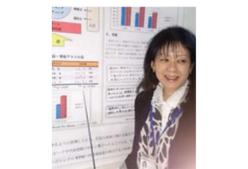
子ども理解・特別支援教育実践コース 近藤 友美  
病気の子どもにおけるコミュニケーション能力の育成に関する実践的研究・自立活動を中心に、というテーマで研究を進める中で今回の省察はとても充実したものになった。私の研究では、アサーションを取り入れた授業実践をとおして、子どもたちの生活の中での様子の変化を探っていく。その経過を報告する中で様々なご意見や感想をいただくことができた。

子どもたちの個別の教育支援計画の読み込みや、今後のデータの取り方・まとめ方などこれからもっと深めるべきことに関するご助言や、アサーション・トレーニングに興味を持っていただき実践内容や子どもの反応に関することを質問して下さる方もいらっしゃった。今後はいただいたご意見を参考に、子どもたちの日々の変化を丁寧に報告書としてまとめていきたい。



児童が異質な集団で交流できる能力を育むための研究

学校運営・授業実践開発コース 修 韜慧  
本研究は、児童同士の異質さや、お互いの個性や特徴を認め合いながら、集団で交流する必要性に気付かせ、異質なものの同士の集団で協力しながら行動できることを目指して進めている。本研究の実践では、児童と外国人ゲストと一緒にカルタ大会とその後の交流会をするという授業を行った。今回の発表で、以下のような意見があった。①本研究を教化する方について、②「協働」にこだわる理由は何なのか、③実践活動のねらいと研究目的のつながりが分かりやすく提示すること、④アンケートの結果に差がある理由、及びアンケート結果に基づいた評価方法を考えること、などである。これらの意見を参考にしながら、引き続き研究成果をまとめていきたい。



より効果的な速読のあり方を求めて

国際理解・英語教育実践コース 南 美喜子  
現代のグローバルな社会の中、英語の情報は特に重要であり、その情報を即座に読み取り、理解する能力が日本社会においても求められている。そのために英語の「速読力」は学校の授業でも大切だと思われる。レスポンスとして「速読」が易しい文を読ませる「多読」と混同されることもあったが、本来「速読」とは日本語と同じように新聞記事などどんな文章でもさっと一読し、テーマが把握できる力のことであり、それは教科書のリーディング指導においても可能だと考える。  
今回の実践では、教科書より易しい文を読ませ、速読の効果を分析した。その結果、3つの群の中では、中位群の内容理解度が一番伸びていることがわかった。今後、各群の伸び率要因の考察と、更には教科書での速読を実施し、その効果を比較・検証していく。



「絵本の読み聞かせ」を用いた児童の学級適応に関する実践

子ども理解・特別支援教育実践コース 玉利 彩  
本実践研究では、「絵本の読み聞かせ」を用いた児童の学級適応に関する実践を行った。児童の実態把握として行動観察と3つのアンケートを実施し、児童の学級適応の状況と不安やストレスの傾向について調査した。そして絵本を選書し、絵本の読み聞かせを定期的に行い、絵本の読み聞かせを活用した授業を実践した。これら実践後、事前と同じ方法で実態把握を行った。児童の反応について検討し、本実践研究の有効性を確かめることとしている。

ポスター発表においては、選書した絵本についての質問を多く受けた。今後は、絵本を選ぶ際の参考になるような「心の癒やしに関する絵本」を精選し、絵本の選書リストを完成させ、学校現場において活用できるものにしていきたい。



「聴き取る力」を育てる音楽科学習指導

聴く活動 表現と鑑賞の関連 思考判断の場  
教科授業実践コース 永吉 由紀  
全ての音楽活動の根底となる聴く活動に焦点を当てた研究である。「聴き取る力」の育成には、聴く活動とその結果から思考判断する活動が有効であることを明らかにする。鑑賞では、視点を決めた曲想や要素の聴取により、音楽学習のモデルや音楽に対する価値観を形成する。表現では、表現の違いを感じ取り、思考判断しながら表現の工夫をすることで表現の質の向上を図る。特に比較聴取は児童にとって分かりやすく有効な方法であると考える。これら表現と鑑賞の活動を図り、学習指導過程の工夫をすることで「聴き取る力」を育てる。今後は聴き取って、思考判断し、演奏に生かすという学習の過程を視点に、さらに研究に取り組む。

### ラウンドテーブルの様子



このフォーラムでは福井大学の協力を得てラウンドテーブルを行いました。ラウンドテーブルは少人数のグループ内で日常の実践を語り合い、聞き合う活動です。報告者と聞き手に分かれ、ゆっくりと話し合うこのような機会を通して「学びゆく教師像」の実感を高めるものです。

### 〈ポスター発表〉 発表者とテーマ

- 1 出口 康子  
通級指導教室における書字指導の実践研究
- 2 川口 純子  
中学校国語科において文学作品の読解を深めるための指導方法の研究
- 3 近藤 友美  
病気の子どもにおけるコミュニケーション能力の育成に関する実践的研究
- 4 玉利 彩  
「絵本の読み聞かせ」を用いた児童の学級適応に関する実践
- 5 井上亜依子  
小学校通常学級における積極的行動支援 (PBS) を用いたクラスワイドな支援の在り方
- 6 下山 美麗  
高等特別支援学校 (知的障害) におけるキャリア教育の実践研究
- 7 岡崎 耕  
未来からの振り返りによる自己肯定感
- 8 田中 淑香  
子どもが自己と他者を見つめつなげる授業についての研究
- 9 畑島 英史  
21世紀型の資質・能力を育む総合的な学習の時間のカリキュラム開発方法
- 10 濱浦 翔  
地域認識を育む教育の研究
- 11 修 韜慧  
児童が異質な集団で交流できる能力を育むための研究
- 12 永吉 由紀  
「聞き取る力」を育てる音楽科学習指導
- 13 梶山 円貴  
児童の意欲的な班活動を実現する小学校理科授業
- 14 喜久 優佳  
英語科の授業におけるブレ・リーディング活動について
- 15 岸川 奈津美  
リスニングにおけるbottom-up処理の力を支える発音指導
- 16 南 美喜子  
より効果的な速読の在り方を求めて
- 17 吉田 真理子  
外国語科における語彙の定着を目指した指導の研究
- 18 内野 成美・他  
子どもの学級適応を支える学級づくり
- 19 内野 成美・他  
対人関係におけるルールの共有化を図る学級づくり
- 20 山路 裕昭・他  
資質・能力の系統的育成を目指した理科授業の研究
- 21 土肥 大次郎  
社会問題に対する思考力育成を重視した中学校社会科授業の研究
- 22 木村 彰孝・他  
小学校における野外活動を生かした「木育」授業の開発と実践
- 23 濱田 裕子  
「のびのび教室」の取り組みから見る地域支援の役割
- 24 今里 純一・他  
KABC-II 検査結果の分析に基づく個別の指導計画の作成
- 25 原田 和幸  
小学校以降の学びを見通した幼児の学びの探求
- 26 石川 健一郎  
学びのユニバーサルスタイルへの構想
- 27 藤木 卓・宇田川 功志・他  
小中で連携し、協働によって思考力・判断力・表現力を高める研究